

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第18回 地域に根差し酪農や牧場のファンづくり

小学校に子牛貸し出し児童らが飼養、命の大切さに気付いてほしい

地域交流牧場全国連絡会東海ブロック(愛知県刈谷市 ㈱清水牧場) 清水 一将

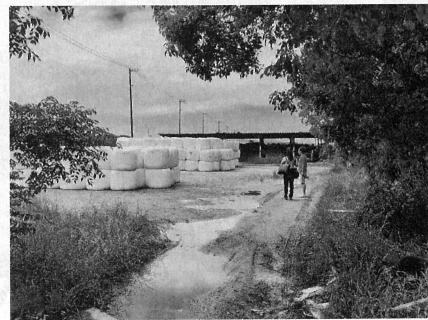
餌に地域の稲WCSや県産のトウモロコシサイレージを活用

私は愛知県刈谷市で唯一の酪農家です。刈谷市は名古屋の南に位置し、㈱デンソーや㈱アイシンの本社の他、㈱トヨタ自動車の下請け工場が数多い、工業がとても盛んなまちです。牧場環境は平地で、雪はまず降らず、冬でも気温がマイナスになることは数えるぐらいです。その代わり、夏は高温多湿で酪農経営にはなかなか厳しい。周囲は水田で、住宅地も近い牧場です。

牧場は祖父の時代(1960年)に牛1頭から始まりました。2021年に父から私が経営を継承すると同時に法人化し、22年6月に新牛舎(フリーストール方式、176床)が完成しました。現在は搾乳牛約160頭と増頭中です。これまで使っていたつなぎ牛舎では乾乳牛、育成牛約115頭、繁殖和牛8頭を飼養し、育成牛は全頭自家育成。未経産牛には自家採卵した和牛受精卵

を移植し、誕生した和牛子牛は半年間飼養し販売しています。地域の特性上、広大な自給飼料畑は現実的ではないため、全部購入飼料

で経営しています。ただ、全て輸入というわけではなく、地域飼料として地区内の営農組合と協力しホールクロップサイレージ(WCS)用イネを作付け、収穫(年間1,100ロール)した物や、県内産の飼料用トウモロコシのサイレージ(年間1,460ロール)を購入しています。堆肥はイネWCSに関わる耕畜連携で水田にまく他、他の耕種農家や家庭菜園などで利用してもらっています。



牧場に保管するイネWCSやトウモロコシサイレージのロール

市内の小学3年生を中心に年間1,500人を受け入れ

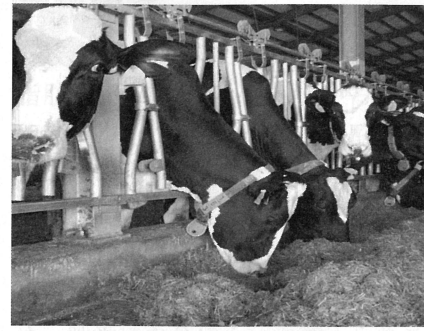
経営理念は「牛と共に生き、地域の発展と豊かな暮らしに貢献します」です。家族のように愛情を持って牛と接し、牛も人も幸せになれるよう努めています。また、酪農教育ファーム活動に取り組むなど、牛乳や乳製品、酪農や牛の良さ理解者(以下、牧場のファン)を増やす活動を積極的に行っています。



交牧連の活動の一環として牛乳の日(6月1日)に消費者へ「ありがとう」を伝えた(左から2番目が筆者)



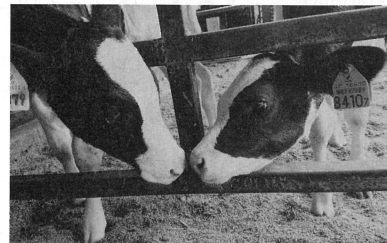
牧場で開いた酪農教育ファーム活動の一コマ



新牛舎で採食する牛たち。日々最高のごはんを食べさせられるよう努力している



パーラでの搾乳作業。年間出荷乳量は約1,000tに達する



子牛たちは愛情を持って育てているのでかわいさ満点

「地域に根差した酪農経営をしなければ酪農は続けられない」という先々代の考え方を引き継ぎ、年間1,500人ほどの牧場体験や見学を受け入れています。そのほとんどが市内の小学3年生です。また、通学区内の小学校には毎年ホルスタイン雌子牛(生後2カ月)を貸し出しており、これは23年間続いています。子牛は生徒たちが名付け、子牛の“入学式”から“卒業式”までの約40日間は校内の牛舎で児童と先生、保護者だけで飼養管理します。子牛の入学式で私は「子牛のお父さん、お母さん、そしてお友達になってください」と話をします。これには、子牛の管理を通して命の大切さや、家族・周囲の愛情に気付いてもらえるといいなという思いがあります。

酪農家仲間からは「後継牛となる牛の貸し出しは信じられない」とよく言われますが、後継になる牛と触れ合うからこそ牧場のファンになってもらえると思っています。小学校を卒業した子牛は牧場に帰ってから受胎し、出産をしてお母さん牛となり生乳を生産していくのです。子どもたちは牧場に足を運べば自分たちが育てた牛がいる、いつでも会える、という環境が最高と考えています。

交牧連で全国の仲間と交流し酪農への熱い思い共有

子どもたちや地域の人たちなどの受け入れは地域交流牧場全国連絡会(以下、交牧連)参加以前から行っていました。交牧連に参加することで、全国で同じように活動している仲間と交流を持つことができ、エネルギーと熱い思いを共有しました。受け入れ時のポイントや、分かりやすい伝え

方なども知ることができます。

一番のメリットは、同じ思いで酪農をしている仲間が全国にできるということです。私は以前、交牧連のクラブユースリーダーを担当していました。クラブユースは交牧連場会員牧場所属で40歳以

下または酪農従事5年以内という人たちの集まりです。簡単に言うと交牧連会員の牧場で働いている若い人です。そこで出会った全国の仲間たちは酪農に対する熱い思いはもちろんのこと、新しい知識や技術、多くの経験を持っていました。そんな若手の集いでは、時間内では話し足りず夜が明けるまで語り合ったりもしました。コロナ禍になりリアルで会うことが難しくなっても、若手の集いはオンラインで開催し続けました。大変な時期を乗り越えたことでウェブを活用することを覚え、より頻繁に情報共有しやすくなったと思います。

同じ志の仲間が全国にいる。それがどんなに心強いことか皆さんもお分かりいただけると思います。酪農は横のつながりがとても大事で、飼料づくりも共同で作業したりします。一酪農家では難しい事でも仲間がいればなんとかなる。少なくとも私は交牧連に参加してとても良かったと思っています。酪農情勢が厳しい時だからこそ横のつながりを大切に、みんなで危機的状況乗り越えていきましょう。

【牧場概要】

牧場名 ㈱清水牧場
代表者名 清水 一将
所在地 愛知県刈谷市小垣江町明門89番地1
総飼養頭数 約300頭(うち搾乳牛頭数約160)
育成牛 約115頭(全頭自家育成)
年間生産乳量 約1,000t
飼養形態 放し飼い(フリーストール)、つなぎ飼い
飼料畑面積 なし(県内産トウモロコシ、イネWCSなど購入)
牧場スタッフ 7人(本人、父、母、従業員4人)
交牧連加入年 1999年
主な活動 ・酪農教育ファーム受け入れ(年間約1,500人)、近隣の小学校への子牛の貸し出し、インターンシップの受け入れ

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先
(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール: koubokuren@churaku.jp
ホームページ: https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック: https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】